

作成日 2018年8月14日(第1版)

改訂日 2024年4月1日(第3版)

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

製品名 PAIgG  
構成試薬 : 「IgG固相プレート」  
: 「酵素標識抗体」  
: 「基質剤」  
: 「基質溶解液」  
: 「標準物質液」  
: 「基質補助液」  
製品コード 140352  
会社名 富士レビオ株式会社  
住所 東京都港区赤坂1-8-1  
担当部署 お客様コールセンター  
電話番号 0120-292-832  
緊急連絡電話番号 0120-292-832  
推奨用途と使用上の制限 研究用試薬

### 2. 危険有害性の要約

「基質補助液」

成分(危険有害物質): 過酸化水素(≤3.0%)

GHS分類

健康に対する有害性: 皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
発がん性	区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(呼吸器系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(呼吸器系)

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語: 危険

危険有害性情報: 皮膚刺激

重篤な眼の損傷

発がんのおそれの疑い

臓器(呼吸器系)の障害のおそれ

長期にわたる、または反復ばく露による臓器（呼吸器系）の障害のおそれ

注意書き：

【安全対策】使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手などをよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。皮膚についた場合：多量の水で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

【廃棄】内容物や容器を廃棄する場合は、地方/国の規制に従って廃棄すること。

「I g G固相プレート」，「酵素標識抗体」，「基質剤」，「基質溶解液」，「標準物質液」

GHS分類

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル：なし

注意喚起語：なし

危険有害性情報：なし

注意書き：内容物および容器は適切な方法で処理すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名：研究用試薬

成分及び含有量

「基質補助液」

成分（危険有害物質）：過酸化水素（Hydrogen peroxide）

化学特性（化学式等）： $H_2O_2$

分子量：34.01

CAS RN：7722-84-1

濃度又は濃度範囲： $\leq 3.0\%$

官報公示整理番号（化審法）：(1)-419

### 4. 応急措置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師の診察/手当を受けること。呼吸器に関する症状が出た場合には医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。  
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当を受けること。  
 眼に入った場合： 水で数分間、注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して  
 いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

## 5. 火災時の措置

消火剤： 二酸化炭素、粉末または水噴霧。  
 周辺の条件に適した消火剤を用いる。  
 使ってはならない消火剤： 情報なし  
 火災時の特有危険有害性： 利用できる更なる関連情報はない。  
 特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動させる。  
 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、適切な保護具を着用し、煙等を吸い込まない  
 ように、風上から作業する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：  
 適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。関  
 係者以外は近づけない。  
 環境に対する注意事項：  
 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。  
 封じ込め及び浄化の方法及び機材：  
 適切な保護手袋と保護眼鏡を付けて処理する。漏えい物をペーパータオル等で拭き  
 取って、適切な廃棄物処理容器に入れる。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して  
 処分する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い  
 技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用する。  
 局所排気・全体換気： 十分な換気ができる場所で取扱う。  
 安全取扱い注意事項： 換気の良い場所で取扱うこと。この製品を使用する時に、飲食  
 又は喫煙をしないこと。皮膚への接触、吸入又は飲み込んで  
 はない。眼の中又は衣類に付けないこと。取扱い後はよく手  
 を洗うこと。  
 適切な衛生対策： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。

### 保管

適切な保管条件： 直射日光を避け、2～10℃に保存する。  
 保存時には凍結しないように注意する。  
 技術的対策： 特になし。  
 混触禁止物質： 特になし。  
 安全な容器包装材料： 特になし。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：取扱い場所の近くに洗眼器と手洗い設備を設置する。  
含有している成分（過酸化水素）で以下の情報が報告されている。

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度

日本産業衛生学会（2013年度版）： 設定されていない

ACGIH（2013年度版）： TLV-TWA 1ppm

保護具

呼吸器の保護具： 防じんマスク、簡易防じんマスク

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

眼及び/又は顔面の保護具：適切な保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具：適切な保護服を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

	I g G固相プレート	酵素標識抗体
物理状態	プレート	液体
色	無色透明	無色透明または微紅色
臭い	データなし	データなし
融点／凝固点	データなし	データなし
沸点又は、初留点及び沸点範囲	データなし	データなし
可燃性	データなし	データなし
爆発下限及び爆発上限界／可燃限界	データなし	データなし
引火点	データなし	データなし
自然発火点	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
pH	データなし	ほぼ中性
動粘性率	データなし	データなし
溶解度	データなし	データなし
n-オクタノール／水分配係数(log値)	データなし	データなし
蒸気圧	データなし	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし	データなし
相対ガス密度	データなし	データなし
粒子特性	データなし	データなし

	基質剤	基質溶解液
物理状態	錠剤	液体
色	白色	無色透明
臭い	データなし	データなし
融点／凝固点	データなし	データなし
沸点又は、初留点及び沸点範囲	データなし	データなし
可燃性	データなし	データなし

爆発下限及び爆発上限界/ 可燃限界	データなし	データなし
引火点	データなし	データなし
自然発火点	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
pH	データなし	やや酸性
動粘性率	データなし	データなし
溶解度	データなし	データなし
n-オクタノール／水分配係 数(log値)	データなし	データなし
蒸気圧	データなし	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし	データなし
相対ガス密度	データなし	データなし
粒子特性	データなし	データなし

	標準物質液	基質補助液
物理状態	液体	液体
色	無色透明	無色透明
臭い	データなし	データなし
融点／凝固点	データなし	データなし
沸点又は、初留点及び沸点 範囲	データなし	データなし
可燃性	データなし	データなし
爆発下限及び爆発上限界/ 可燃限界	データなし	データなし
引火点	データなし	データなし
自然発火点	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
pH	データなし	データなし
動粘性率	データなし	データなし
溶解度	データなし	データなし
n-オクタノール／水分配係 数(log値)	データなし	データなし
蒸気圧	データなし	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし	データなし
相対ガス密度	データなし	データなし
粒子特性	データなし	データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 「基質補助液」

- 安定性： 通常の使用であれば安定と考えられる。
- 危険有害反応可能性： 情報なし  
ただし本試薬に含まれる過酸化水素は、強力な酸化剤である。
- 避けるべき条件： 情報なし
- 混触危険物質： アンモニア、炭素、金属、酸化剤

危険有害な分解生成物：情報なし

## 1 1. 有害性情報

「基質補助液」

(成分(危険有害物質)：過酸化水素)

急性毒性： ≤3.0%含有のため区分に該当しない。

皮膚腐食性/刺激性： 区分1である過酸化水素が≤3.0%含まれることから区分2に分類される。

皮膚刺激(区分2)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 区分1である過酸化水素が≤3.0%含まれることから区分1に分類される。

重篤な眼の損傷(区分1)

呼吸器感作性又は皮膚感作性： データがなく分類できない。

生殖細胞変異原性： 情報がなく分類できない。

発がん性： 区分2である過酸化水素が≤3.0%含まれることから区分2に分類される。

発がんのおそれの疑い(区分2)

生殖毒性： 情報がなく分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)： 区分2である過酸化水素が≤3.0%含まれることから区分2に分類される。

臓器(呼吸器系)の障害のおそれ(区分2)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 区分2である過酸化水素が≤3.0%含まれることから区分2に分類される。

長期にわたる、または反復ばく露による臓器(呼吸器系)の障害のおそれ(区分2)

誤えん有害性： 情報がなく分類できない。

「I g G固相プレート」, 「酵素標識抗体」, 「基質剤」, 「基質溶解液」, 「標準物質液」

急性毒性： 情報がなく分類できない。

皮膚腐食性/刺激性： 情報がなく分類できない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 情報がなく分類できない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性： 情報がなく分類できない。

生殖細胞変異原性： 情報がなく分類できない。

発がん性： 情報がなく分類できない。

生殖毒性： 情報がなく分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)： 情報がなく分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 情報がなく分類できない。

誤えん有害性： 情報がなく分類できない。

## 1 2. 環境影響情報

「基質補助液」

(成分(危険有害物質)：過酸化水素)

生態毒性

水生環境有害性、短期(急性)： ≤3.0%含有のため区分に該当しない。

水生環境有害性、長期(慢性)： ≤3.0%含有のため区分に該当しない。

残留性・分解性： 情報なし

生物蓄積性： 情報なし  
 土壌中の移動性： 情報なし  
 オゾン層への有害性： 情報がなく分類できない。

「IgG固相プレート」，「酵素標識抗体」，「基質剤」，「基質溶解液」，「標準物質液」  
 生態毒性

水生環境有害性、短期(急性)：情報がなく分類できない。  
 水生環境有害性、長期(慢性)：情報がなく分類できない。

残留性・分解性： 情報なし  
 生物蓄積性： 情報なし  
 土壌中の移動性： 情報なし  
 オゾン層への有害性： 情報がなく分類できない。

### 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 残余廃棄物は大量の水で流すか、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装： 容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

### 1 4. 輸送上の注意

#### 注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

輸送に際しては直射日光を避け、容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下および損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

### 1 5. 適用法令

労働安全衛生法： 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（法第57条・第57条の2、施行令第18条・第18条の2）  
 政令番号別表第9の126号（過酸化水素）  
 本製品は労働安全衛生法表示・通知対象物質である。  
 労働安全衛生法規則第594条の2、皮膚障害化物質等に該当する。（過酸化水素）

毒物及び劇物取締法： 劇物 指定令第2条第19号（過酸化水素）本製品での含有率は6%以下のため該当しない。

化学物質排出把握管理促進法： 該当なし

### 1 6. その他の情報

#### 主な引用文献

職場のあんぜんサイト

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html>

NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）

[https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/chrip/chrip\\_search/systemTop](https://www.chem-info.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop)

記載内容については、現時点で入手できる資料等に基づいて作成したのですが、すべてを網羅しておりませんので、取扱いの際には十分注意してください。